

【西部地区における学校のあり方説明会】

育親中学校区（西部地区4町）における学校のあり方についての説明会が、2月22日に保護者を対象に、2月28日に住民を対象に開催されました。

教育委員会から示された適正化の方向の骨子については、次のとおりです。

- 西部地区に新たな学園を建設して開学する
- 新たな学園は義務教育学校として、現在の小・中学校から新たな学園へ児童生徒を移す
- 中央教育審議会が示す「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の方針に沿ったICT環境にも富んだ先駆的な学校をつくる
- 義務教育9年間を見通した新時代の教育を提供する学校とする（教科担任制の導入等）
- 学校と地域資源・住民が連携して育む環境をつくっていく（コミュニティスクール等）
- 不登校児童生徒への対応を見据えた教育支援機能の強化（不登校特定校）
- 学区にとらわれず、校区外から希望する者が通学できる特認校

また、説明会への参加者からは、総じて現在の教育環境を放置して先送りすべきでない。早く学校規模適正化措置を実現して欲しいとの意見でした。

- 子どもや保護者の想いを優先して進めていかねばならないことは理解できても、当町から小学校がなくなることへの寂しさがあり、あつて複雑な心境にある。施設の活用や地域活性化方策も併せて考えていく必要がある！
- 開校する新たな学園は、既存の施設利用ではなく、新たに建設することを基本にして進めて欲しい！
- 義務教育学校の利点を最大限活かした、新たな学校の開設を！
- 時間も経費も要する大きな改革であるが、今の児童生徒たちも新しい学園で学べるよう早期実現を目指して進めて欲しい！

等々多くの意見がありました。